

## 住まいとコミュニティづくり活動助成事業（地域・コミュニティ活動助成部門）

## 成果発表会（平成30年度助成）&amp;まちづくりNPO交流の集い

令和元（2019）年8月31日（土）に、平成30（2018）年度「住まいとコミュニティづくり活動助成事業（地域・コミュニティ活動助成部門）」対象11団体の成果発表会を開催しました。（会場：御茶ノ水ソラシティ カンファレンスセンター RoomC）

## 開会挨拶



松本 昭 氏（財団専務理事 住まいとコミュニティづくり活動助成事業選考委員）

財団は1992年の設立以来、多様な市民まちづくりを支援しておりこれまでの助成対象は延べ399団体にのぼります。今回は、まず椎原晶子先生から「歴史文化」「まちづくり」「コミュニティ」の3つのキーワードを掛け合わせた基調講話をさせていただきます。その後、昨年度の助成団体からの報告を通して、市民主体のまちづくりの今後について楽しく勉強したいと思います。



## 第1部 基調講話

## 「ふるさとになれるまち」～歴史文化を活かしたまちづくりとコミュニティ

～点から面へ、古い家や谷中のまちに込められた暮らしの文化を守り活かす～

椎原晶子氏（NPO法人たいとう歴史都市研究会 代表理事）



活動が点から面へ展開するのにあわせて、それぞれの状況に適した組織形態（谷中学校、NPOたいとう歴史都市研究会、（株）まちあかり舎等）で谷中地区の歴史文化資源の保全と活用を図ってきたというお話をされました。

## はじめに：地域に学んで地域に還す：第一、第二のふるさとづくり

## 1. Evaluation まずは価値観の変換から

地域文化の掘起こしと地域団体の連携～（変化の激しい東京の中で）

- 谷中菊まつり 1984～
- 地域雑誌『谷中根津千駄木』1984～2009
- 地域団体・大学の連携「親しまれる環境調査」1986～1988  
歴史、路地、建物、自然、遊び、思い出。→冊子や写真にまとめてまちで発表



## 2. Action 波紋をひろげる：「まちに学んでまちに還す」『谷中学校』のとりくみ

- まちを知る（歴史講座、建物調査、谷中芸工展、谷中ジャングル探検隊、谷中すぐ六 etc）
- まちに提案（歴史的建物の保全、マンション計画見直し、路地や緑の保全 etc）
- まちとひとをつなぐ（新旧住民交流、お祭り参加、子供イベント etc）
- まちじゅう展覧会『谷中芸工展』1993～ まちの手作り文化再発見・発信！



## 3. Preparation 布石を打つ：点から面への活性化

- 歴史的建物の保全活用：まちの生活文化の体験モデル拠点づくり
- 新しい集住の形：地域共生型集合住宅の効果

## 4. Motivation 自ら動くプレイヤーを増やす

- 自分が動機ですまいづくり、まちづくりに関わる。
- 持ち主も借り主も主役になれる建物活用、住まい方、働き方

## 5. Vision 方向性を共有する

- ルールを明文化する～マンション見直し運動から建築協定、面的都市計画へ
- 安心して歩けるまちづくりへ：スピード抑制、車止めの社会実験から

## 6. Sustainability 持続性あるまちへ

- 次世代に受けつぐ～子供たちとまちと住まい体験：「寺子屋」、「たねっこ」
- 地域ぐるみのまちぐるみにむけて～行政・地域団体・専門家・有志の連携
- 法制度・金融・コミュニティで支える、歴史文化資源の保全活用、防災対策

## キーワード

まちに学んで、まちに還す  
まちの誇りを次世代に受け継ぐ  
安心できる、楽しいまち  
ふるさとをつくる

## 第2部 活動成果発表

### 1. コミュニティにより地域の持続性と活力を育む取り組み

#### 1 NPO 法人西会津国際芸術村 (福島県西会津町)

活動テーマ 旧旅館の改修とバス停のリノベーションでまちなか交流拠点の創出

活動のキーワード ● 空き家の利活用 ● コミュニティづくり ● アートを活用したまちづくり

昨年度助成による活動・成果 ● 空き家改修によるギャラリーおよびコミュニティスペースの開設  
● ギャラリーを活用した展示イベント（2019年8月現在までに3回実施）

昨年度未達成の内容・活動上の課題 ● 常駐メンバーの確保 ● 経費を確保するための営利事業

発表者  
佐々木雄介さん



基本事項  
団体種別：NPO 法人  
設立年：2004年  
メンバー数：17人

#### 2 福知山ワンダーマーケット実行委員会 (京都府福知山市)

活動テーマ 空き店舗のリノベーションとレトロ商店街の活性化

活動のキーワード ● 商店街活性化 ● 空き店舗のリノベーション ● 学生参加のまちづくり

昨年度助成による活動・成果 ● 廉価なレンタルスペース「アーキテンポ」の開業

昨年度未達成の内容・活動上の課題

● 特にないが、持続可能なプロジェクトするために引き続き利用者を維持・拡大するように取り組む

発表者  
庄田健助さん



基本事項  
団体種別：任意団体  
設立年：2016年  
メンバー数：13人

#### 3 桃谷ロイター実行委員会 (大阪府大阪市)

活動テーマ 多様化した地域コミュニティの相互理解と交流の深化

活動のキーワード ● 地域情報誌「桃谷ロイター」の継続発行 ● リサーチ（歴史、ものづくり、空き家）  
● イベント（地域イベント、紙面交流会） ● 未来の収益のための仕組みづくり

昨年度助成による活動・成果

● 「桃谷ロイター2号・3号」発行 ● ももがたりサロン、空き家測量会・活用提案の実施  
● 地域イベントへの出店、紙面交流会の開催 ● 生野プロダクトの試作（ドリップスタンド、桃谷おちょこ）

昨年度未達成の内容・活動上の課題 ● 空家オーナーさんに対する事業計画提案 ● 活動応援アイテム開発や仕組みづくり  
● メンバーの拡充 ● 協賛金獲得仕組みづくり（生野プロダクト）

発表者  
川口万喜さん  
伊藤千春さん



基本事項  
団体種別：任意団体  
設立年：2016年  
メンバー数：7人

#### 4 ふるさとかかし親の会 (兵庫県姫路市)

活動テーマ 奥播磨かかしの里 展示施設の整備による過疎集落の活性化

活動のキーワード ● 空き家屋の活用 ● 過疎集落の活性化

昨年度助成による活動・成果 ● 空き家改修によるかかし展示・交流施設整備  
● かかし展示、休憩用のベンチ設置 ● PR用写真集小冊子の作成

昨年度未達成の内容・活動上の課題 ● 住民減少が進行しており、いかにして集落を維持していくかが課題  
● 「かかしの里ファン」の組織化により地域との交流 ● 支援を推進

発表者  
岡上正人さん



基本事項  
団体種別：任意  
設立年：2012年  
メンバー数：15人

#### 学識者のコメント



評議員 小林郁雄氏

アートやアーティストの関わりのある活動が多く、アートの視点から地域文化を捉えなおすことも大事だと感じました。



評議員 芦田英機氏

各団体が活動資金をどのように稼いでいるのか、稼いでいくうとしているのかについてさらにお聞きしたいと思いました。

## 2. 福祉介護と多様なコミュニティ活動による地域づくり

### 5 NPO 法人ケアラーネットみちくさ（千葉県柏市）

活動テーマ 空き家利用のケアラーズ（介護者）カフェを活用した近隣住民にとっての居場所づくり

#### 活動のキーワード

- ケアラーのための居場所
- 近隣住民への浸透・連携
- 地域に根ざしたケアラーズカフェ

発表者  
布川佐登美さん



#### 昨年度助成による活動・成果

- A 空間の工夫（アクセシビリティ向上・玄関周り開放化）と B 仕組みの工夫（コモンガーデンの創設）
- 以上を学生、ケアラーや認知症本人、小学生らと実施
- 改修後の利用者評価

#### 基本事項

団体種別：NPO 法人  
設立年：2013 年  
メンバー数：74 名

#### 昨年度未達成の内容・活動上の課題

- 小学生の日常的利用には繋がってない
- 地域の若い世代との連携に至らない
- ケアラーサポート事業の継承のため他団体との課題や継承のための検討を行う

### 6 NPO 法人しんしろドリーム荘（愛知県新城市）

活動テーマ 地域での安住を支えるショーファー（お抱え運転）システムの社会実験

#### 活動のキーワード

- 運転なしで暮らせる地域づくり
- ショーファー（お抱え運転手）の生活支援
- 即効性ある高齢者事故対策

発表者  
山本拓哉さん



#### 昨年度助成による活動・成果

- 制度設計の充実
- 社会実験による確実性の確保
- 実運用体制の確立

#### 昨年度未達成の内容・活動上の課題

- 普及体制の拡充
- ショーファーの教育訓練の充実
- 全国組織づくりによる普及

#### 基本事項

団体種別：NPO 法人  
設立年：2005 年  
メンバー数：34 人

### 7 認定 NPO 法人東灘地域助け合いネットワーク（兵庫県神戸市）

活動テーマ 小学生のための寺子屋の場づくり

#### 活動のキーワード

- 多子高齢化による課題解決にチャレンジ
- シニアが未来の大人を育てる
- 市場の空き店舗で居場所づくり

発表者  
村山メイ子さん



#### 昨年度助成による活動・成果

- 寺子屋（わいわい広場）の改装工事
- 宿題お助け隊
- 子どもの居場所わいわい広場の運営
- 3 世代交流イベント

#### 昨年度未達成の内容・活動上の課題

- こども食堂に子どもの利用が広がらない。

#### 基本事項

団体種別：NPO 法人  
設立年：1995 年  
メンバー数：120 人

#### 学識者のコメント



理事 安藤雄太氏

介護している人を孤立させないこと、運転免許を返納しても孤立せずに地域で暮らすこと、子ども達が孤立しないで多様な世代と学ぶことを目指していらっしゃるのが重要だと思いました。

しんしろドリーム荘の活動は、お抱え運転手という新たな切り口を持ち込んだことで道路運送法を変えていくのではないかと感じます。NPO が互助システムとして行うことで、運送事業ではないと明言されており今後の展望が開けるのではないでしょうか。



監事 小場瀬令二氏

子ども食堂に子どもが集らないという報告がありました。「子ども食堂」と称していると学校で偏見があるようで子どもが集らないようです。先ほどの発表ではその後、「子どもの料理教室」という名称に変更して参加者が増えたそうで、人々が受ける印象が良くなつたのだと思います。

### 3. 文化遺産や歴史的建造物の保全・活用による地域づくり

## 8 NPO 法人旧鈴木家跡地活用保存会（静岡県浜松市）

### 活動テーマ 庄屋敷の再生による多様な人の交流拠点化

活動のキーワード ● 屋敷跡地に残る明治期の建屋の改修 ● 多世代の居場所・交流拠点づくり

昨年度助成による活動・成果 ● 弓道場的場の改修 ● 活動紹介の HP/パンフレットの作成

#### 昨年度未達成の内容・活動上の課題

- 母屋改修気運の高まりを生んではいない
- 市と協働して建物を使った事業者募集を働きかける
- 弓道場射場を使っての事業展開を NPO 自身で実施する事の検討

発表者  
池田敏章さん



#### 基本事項

団体種別：NPO 法人

設立年：2016 年 3 月

メンバー数：正会員 21 名

賛助会員 50 名

## 9 つげ野の森市民ネットワーク・黒谷プロジェクト（愛知県新城市）

### 活動テーマ 伝統建築の修復を通した学生への技術の継承と里山体験空間の創出

活動のキーワード ● 伝統建築技術の建築学生への継承 ● 都会の親子に里山自然体験の場づくり  
● 地域の過疎化の中、大学生が加わって協同して地域活動を担う

#### 昨年度助成による活動・成果

- 朽ちかけていた蔵の外壁を修復・忌門の立ち上げ・庭の修復等することで、地域の景観を美しくすることに寄与した
- 地域の方達に活動が喜ばれた ● 屋敷の利用価値として「ピザ窯」を設置してこども達のあそびが広げられた

#### 昨年度未達成の内容・活動上の課題

- 忌門の小舞竹・土壁等実践作業を完成させる
- 蔵の中、1階部分をホールとして使用できるように改修作業を終え、地域を取材したドキュメンタリ 映画を上映して蔵を紹介する

発表者  
中島澄枝さん



#### 基本事項

団体種別：任意団体

設立年：2011 年

メンバー数：約 50 人位

## 10 鞆・暮らしと町並み研究会（広島県福山市）

### 活動テーマ 鞆の町並みを後世に伝えるための人材育成

活動のキーワード ● 住民の意識改革 ● 技術者的人材育成 ● 保存指針の作成 ● 重伝建

発表者  
鶴岡智史さん



昨年度助成による活動・成果 ● 住民学習会の開催（10 回） ● 現地見学会の開催（2 回） ● 保存のための古写真集作成

#### 昨年度未達成の内容・活動上の課題

- 伝統的建造物群保存地区制度や文化財建物の保存についてスタッフや住民への学習会に時間がかかってしまいました
- 技術者的人材育成まで実施することができなかった

#### 基本事項

団体種別：任意団体

設立年：2017 年 9 月

メンバー数：51 名

## 11 八代宮地紙漉きの里を次世代につなぐ研究会（熊本県八代市）

### 活動テーマ 400 年の伝統を有する宮地和紙の保存・継承

活動のキーワード ● 宮地和紙の保存継承 ● 暮らしの景観の保存・継承 ● 宮地和紙の広報 ● 新しいデザイン開発

#### 昨年度助成による活動・成果

- 宮地和紙の展示・即売「宮地和紙に暮らす店」の開店（4 か所）
- 「八代・宮地紙漉きの里、紙と水辺のくらしを歩く」2 回開催
- 熊本来民うちわとのコラボ「涼やかな風を運ぶ宮地和紙オリジナルうちわ作り体験」の開催
- 子供たちを対象とした「絵手紙ワークショップ」開催 ● 妙見祭「白和幣」に矢壁さんの宮地和紙を奉納

発表者  
磯田節子さん



#### 基本事項

団体種別：任意団体

設立年：2015 年

メンバー数：12 人

#### 昨年度未達成の内容・活動上の課題

- 宮地地元住民のイベント参加が少ない ● 70 年間唯一の生業として紙漉きを続けてこられた宮田さんが高齢のため辞められる
- 定例会の時間設定の難しさ（職業がある人は夜がよいが、地域の主婦は夜は不可能という現実） ● デザイン開発から製品化への困難さ

## 学識者のコメント



理事  
椎原晶子 氏

東京においても歴史的建造物は存亡の危機にあります。使う人があれば救われる建物がありますので、様々なネットワークを駆使してSNSを活用するなど、SOSを発信し続けることが大切です。

また、費用の捻出には苦慮するところですが、建物に詳しい方と一緒に調査を先に行い、保存活用計画を立てることが必要です。計画に合わせて修繕積み立てをしたり、ボランティア、寄付、クラウドファンディング等を募ったり、また地元の信用金庫等に出資を依頼するなどお金が回る仕組みを検討することも重要です。

そして、協働関係にある大学の存在は大きいです。先生のアドバイスや学生が張り付いて調査をしてくれるなど心強いものです。



選考委員  
閔由有子 氏

財団から支援される側から選考委員になり改めて皆様の活動現場を見てみると、空き家、歴史的建造物や文化遺産の保存活用は大きな時代の流れの中にあると感じます。日本では建築の大学でも手仕事を教えていないので、学生がものができる過程を知ることは、色々な意味で応用可能だと思います。また、建築士や大工など技術や技能を持った人が、職能の中でうまく関わることも必要だと感じました。

## 第3部 参加者によるディスカッション

### 発表団体と学識者の質疑応答



#### Q 顧問／高見澤邦郎 氏

行政からの支援があれば縛りや制約があり、なければ自由闊達に活動が行える良さと運営上の大変さの両面があると思います。行政に対してどのように考えていらっしゃいますか。



#### A ケアラーネットみちくさ／布川さん

現在はほとんど補助金で賄っていますが、利用者の名前や延べ人数ではない実数での利用者数(約4千人)の報告などが義務付けられていて、事務手続きが煩雑です。



#### 東灘地域助け合いネットワーク／村山さん

介護保険が縮小ってきており、私たちのような制度外の事業が重要だということで市から補助金を得ています。複雑で煩雑な事務手続きに対して一人当たり月に500円が出ます。補助金をもらわずに高齢者に寄り添う自由な活動を行うほうが楽だと思いますが、今後さらに高齢社会となることを考えて活動が回るように、金額をもう少し上げてもらえないか市の担当者と話し合っています。



#### Q 一般参加者

人材や資金が潤沢ではない活動で得られるものはどのようなことでしょうか。



#### A 理事／松居秀子 氏

まちづくり工房では7年間で色々な財団から助成金を1千万円～2千万円程度得て、時間をかけて地道に空き家再生を行ってきました。私たちが再生したのは3軒ですが地域では40数軒にのぼります。積み重ねが大切で、お金がなくても知恵を働かせると人とのつながりを呼び込んでくるものです。10年間調査などに関わってくれた大学生たちがまちづくり会社を立ち上げて、いま次の世代へのつながりを考えるに至っています。



#### 選考委員／山下馨 氏

お金はあるにこしたことはありませんし、お金の集め方を学ぶ必要がありますが、お金があると自分たちだけが頑張っているからいいのだと、自分たちの殻の中にこもりがちです。ない方が知恵を出し合い手伝ってくれる仲間を得ることができます。

## 学識者のコメント



### 前評議員／杉山茂一氏

當利事業として成り立つようであれば立ち上がりを助成しますので、あとは自立していきましょうと捉えられる団体もいれば、財源がほぼ補助金頼りで将来的に福祉として活動していくのか検討する必要がある団体がいました。その中間的な存在として、桃谷ロイター実行委員会が印象に残っています。



### 理事／松居秀子 氏

NPOを運営する立場としまして、2～3年の持続可能な支援をいただけないと、ある程度自立への道が開けるのではないかと思います。活動する団体においても財団が納得できるものを持って申請する必要があります。



### 評議員／加藤種男 氏

既に制度や法律があつて有意義な活動を邪魔したり、やりにくくしているケース、逆に制度や法律があつたほうがいいと思われるケースがありました。財団は、ポジティブな活動事例を整理して、今後政策提言をしていく必要があるのではないかでしょうか。また、これまでの助成対象で良い事例はたくさんありますが、全国的に知られていないので、他地域でも同じことを悩みながらゼロから考えていことになります。財団を中心として全国的なネットワークの構築が必要だと感じます。



### 選考委員／山下馨 氏

行政と地域の思いが少々ずれているようなので制度をうまく動かしたりつくるために、ベースになるプラットフォーム同じにしようと、谷中からの呼びかけで神楽坂も一緒に東京都に歴史都市文化宣言をしようとしています。また、神楽坂には路地はなくてはならないものですが、消防上の問題にも挙げられます。路地を残すときに制度とどのように戦うか、どのように味方につけるは重要で、色々なことを勉強しないとまちづくりは前に進まないと思います。



### 理事／保井美樹 氏

財団がこれまで支援した団体の中には、30年来の取り組みで自立した事業体がある一方で、助成時以降の情報がない団体もいます。これまでの助成団体を整理して現況を把握することで、成長モデルが見えてくるのではないかと感じ、現在、学生が協力してリスト作りを始めているところです。また、本日発表された東灘地域助け合いネットワークの活動は、阪神淡路大震災以降の取り組みで、福祉型エリアマネジメントまで発展しており、互助の仕組みがしっかりとつくられていて感銘を受けました。



### 監事／小場瀬令二 氏

これまでの助成団体の卒業生の同窓会を開催することもネットワーク形成に寄与すると思います。

成果発表・ディスカッションの後は、  
交流懇親会を行いました。

